

「ふね遺産」(応募様式) :

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	<p>第十とよた丸 自動車専用運搬船 (PCC*) 我が国初の PCC、全自走積込(RO-RO)式大型外航船 *PCC ( Pure Car Carrier) Loa=160.0 m 12,517 GT Tyoyopet Corona RT43-L の場合 2,082 台積み 船主：川崎汽船、建造：川崎重工(株)神戸工場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型 自動車専用 運搬船</li> <li>片道は完全空船運航</li> <li>岸壁積み込み・船内移動 全て自走方式</li> </ul> <p>*PCC の呼称は本船からはじまる</p>	<p>・従来船は、ばら積み兼用 自動車運搬船 積み込みに自走(RO-RO)もあるが、Dk 間はリフト、DK 内では横移動装置など使用 (に対し本船は全て自走)</p> <p>9 層の多層 カテナック 構造、2,000 台以上の乗用車積載。兼用船から船型・運行とも PCC に完全脱皮。以後のこの形式・呼称が定着。</p>
2. 対象物の作成・存在時期	<p>起工 1969 年 12 月 20 日 川崎造船所(神戸) 進水 1970 年 04 月 10 日 同上 竣工 1970 年 07 月 09 日 同上 現状 1986 年 08 月 19 日 解体・売却</p>	<p>本船は現存しないが、神戸海洋博物館「川崎ワールド」に展示。</p>
3. 現状 (新造時 写真添付)	 <p>第十とよた丸 日本から北米(主として太平洋側)への自動車運搬に従事。</p>	<p>Loa = 160.00 m Lpp = 150.00 m Bmld = 23.40 m D = 20.40m/14.30m d = 7.00 m GT = 12,517 t DW = 9,240 t K8Z70/120E Diesel 主機 1 基 1 軸 出力 11,200 馬力 サービス速力 18.6 ノット 乗員 30 人</p>
4. ふね遺産 (認定基準の当項目)	<p>【認定対象】 (1) 【認定基準】 (1)、(2)、(3)、(4)</p>	
5. 歴史的・ 工学技術的意義	<p>歴史的意義</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①我が国初の全自走大型多層自動車専用船。</li> <li>②自動車輸出の発展に大きく貢献</li> <li>③日本が世界第 1 位の自動車専用船(総 GT)に発展の基礎を作った。</li> </ol> <p>工学技術的意義</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>④浅喫水瘦せ形・大風圧側面積・薄厚板多層甲板構造の Semi 高速船の工学的問題点を実用船型として克服。</li> </ol> <p>完全自走式積み込み方式の採用。</p>	
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.川崎重工業(株)社史</li> <li>2.「90 年のあゆみ—川崎重工業小史」</li> <li>3.「自動車専用運搬船「第十とよた丸」の運航性能と自動車積み設備について」関西造船協</li> </ol>	<p>会誌</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4.「進水記念絵葉書に見る自動車運搬船の発達」</li> </ol> <p>別添 資料 I、II、III、IV。</p>

(ふね遺産認定実行委員会にて一部修正)

別添資料リストー「ふね遺産」 第十とよた丸 応募別添・

資料Ⅰ.「ふね遺産」 第十とよた丸 2016.11.30 岡本 洋

資料Ⅱ.「自動車専用運搬船「第十とよた丸」の運行性能と自動車積み設備について

川崎重工業株式会社 神戸造船事業部 関西造船協会誌 第137号 1970年09月30日

資料Ⅲ.「自動車兼ばら積運搬船第一とよた丸の自動車積み関連諸装置について

川崎重工業株式会社 神戸工場造船設計部 関西造船協会誌 第132号 1969年06月30日

資料Ⅳ.「自動車運搬船建造技術と建造船」自動車専用船の項 吉識恒夫

かはく技術史体系(技術の系統的調査報告書 8) 2005年3月

資料Ⅴ.「世界最初、日本最初のPCCと第十とよた丸 について」 2018.12 岡本 洋

」